

発達相談

＊「発達」の相談って「どんなところ?」「何をするの?」「私の子育ての問題?」等、初めての場所、初対面の人に相談する時は、色々と不安に思いますよね。「夜泣き・かんしゃくがひどい」「よく動く」「言葉がゆっくりな気がする…」といった心配、「周りの子どもと比べると…」というような漠然とした悩みについて保護者と一緒に考える場が「発達相談」です。「こんなこと、相談していいのかな?」と思わず、何かを話す、聞いてもらえることで安心できること、ありませんか? 保護者の方とのおしゃべりから発達について考えることを大切にしています。

＊発達相談は2つのバリエーションで実施しています。

「行動観察・保護者面接」

保護者からの悩みや困り事を聞かせてもらうと同時に、お子様と一緒に遊ばせてもらう時間を設けています。言葉が遅くても、よく動いていても構いません。心理判定員が準備する「おもちゃ」や「触れ合い遊び」を通して、遊び方や行動の特徴を確認させていただきます。

お子様と直接、触れ合わせてもらうことでわかることがあります。例えば、「見るのが得意」「聞くのが得意」「よく動くのではなく、止まっていられない」「話したいけど、うまく舌が動いていない」等の特徴が確認できる場合があります。そういったお子様の特徴を確認させてもらった後、保護者の方にその日に取り組ませてもらった遊び方をはじめ、お子様の特徴への関わり方について説明させていただきます。

「発達検査全般」

⇒知能・認知検査（新版K式発達検査・KABC-II・WISC-V・DN-CAS 他）

言語検査（ITPA 言語学習能力検査・PVT-R 絵画語い検査・構音検査 他）

⇒遊びの中で確認できた特徴について、心理士の主観ではなく、標準化された検査を用いて客観的に把握する場合に実施させていただきます。例えば、うまく言葉が話せないお子様の場合、構音検査で発音の確認をします。より詳しく言葉の発音について確認し、その後の言葉の改善に繋がっていきます。



＊楽しいばかりの子育てだと良いですが、そううまくはいきませんよね…。育児には心配、不安、急な病気で慌ててしまうことも。また、最近、よく耳にする「しょうがい特性」という言葉。

「もしかしたら、うちの子も…」と思っている方もおられるのではないのでしょうか。そうした不安を不安のまま、しんどいまま抱き続けるのではなく、心理士と一緒に考えていきませんか? 「できない、できない」ではなく、「何ができるかな」と考えながら日々の成長、発達を見守れるお手伝いができる相談の場所、それが「発達相談」です。発達には「段階」という言葉があります。「何歳までにこれができる」という発達の目安が設けられているのも事実ですが、あくまで目安です。「段階」であっても「正解」ではありません。一人ひとり、発達の速度、歩みはそれぞれです。「段階」＝「正解」ではなく、その子ども、子ども自身の「段階」を保護者の方と一緒に見つけ、登りやすくなる「階段」を共に作っていったらなという願いをもって日々の相談を行っています。

